

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基盤に据え自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応し、国際社会で活躍できる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○ 学校像	「文武両道」と「組織で勝つ」を経営方針とし、人権尊重と生命尊重を柱とした教育実践により、自らの生活を豊かにする活力ある生徒を育成する学校
○ 生徒像	「磨く」、「挑む」、「思いやる」の生徒行動指針の下、自分のよさや特性を理解し、新たに定めた目標を実現しようと努力する、自他の違いを認めそれを尊重する心をもった生徒
○ 教師像	仕事への責任感と使命感あふれる気持ちを持ち、組織を大切にし、組織で職務に当たり、一人一人の生徒に寄り添い、「やさしく、根気強く」指導できる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

生活指導の徹底が基盤となり、けじめと明るさが両立した学校生活である。生徒行動指針「磨く」「挑む」「思いやる」が生徒・保護者・地域社会に浸透し、学習活動や学校行事に熱心に取り組む姿勢が見られる。

(1) 生徒について

目的意識をもち、明朗快活な生徒が多い。しかし、一部に人間関係づくりができないなど学校生活に馴染むことができずに不登校となる生徒や問題行動等で教育相談を受ける生徒もいる。

(2) 教職員について

公務員としての職務を理解し、強い使命感をもって、熱心に生徒指導や部活動指導に当たる教職員が多くいる。しかし、ここ数年で若手教員が増加するなど、年齢のアンバランスがある。

(3) 保護者・地域社会について

多くの保護者は、本校の教育活動を理解し連携した指導を行っている。しかし、生徒の基本的な生活習慣が確立されていないなどの課題もみられる。地域は、開かれた学校づくり協議会が中心となり、教育の向上を図っている。特に、PTAはもとより足立九中後援会や「おやじ・おふくろの会」は、教育活動推進で物心両面の支えとなっている。

2 成果と課題

(1) 成果

コロナウイルス感染拡大防止の観点から、臨時休業期間があり授業時数を確保する必要があった。リモートによる授業や教育計画を見直すなど、柔軟な対応を行った結果、ほぼ例年通りの授業時数と内容を実施することができた。また、様々な学校行事については、時期や形式をかえることでほぼ実施することができた。

(2) 課題

ア 学力調査結果と生徒の自己評価の分析により、基礎的・基本的内容の定着、意欲を高める指導の充実、学習習慣の確立が課題であり、授業力の向上と家庭との連携により学力向上を図っていく。また、ICT環境の充実に伴う指導方法の工夫・改善などの教員の指導力の向上と生徒のリテラシーや活用力の向上を図っていく。さらに、特別支援教室の設置を生かした学習習慣の確立を図る。

イ 豊かな心の育成については、学校行事等の自主的な運営や社会貢献活動の発展を検討するとともに、道徳科の充実等による思いやりの心や自律の態度を養い、生徒の自尊感情や自己肯定感を一層高めていくことが課題である。また、特別支援教室を活用し、ソーシャルスキルを身に付ける活動を強化する。

ウ 運動習慣の確立など、活力ある生徒の育成や体力向上に関する取組を一層推進する。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上：確かな学力の定着と主体的な学習態度の育成【学力向上アクションプラン】	○	○	○	○	○
2	健全育成：思いやりを中心とした豊かな心の涵養	○	○	○	○	○
3	体力向上：自らの生活を豊かにする活力ある生徒の育成	○	○	○	○	○

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上：確かな学力の定着と主体的な学習態度の育成【学力向上アクションプラン】							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)		コメント・課題			達成度 ◎○△●	
基礎的・基本的な学習内容の定着と自ら主体的に学ぶ力の育成		<ul style="list-style-type: none"> 年度末到達度 確認テスト正答率65% 令和3年度区調査 通過率60% 	正答率 1年56% 2年62% 通過率67.8% ・学習に努力した生徒84.4% ・家庭学習1時間以上60.0%	<ul style="list-style-type: none"> 区学力調査はにおいての通過率は、昨年度から4.2ポイント上昇した。引き続き、習熟度に応じた学力の向上・定着を図る。 家庭学習1時間以上行っている生徒は60%と家庭学習の定着状況は相変わらず低い。 家庭学習の手引きを活用し、保護者との連携強化を図っていく。 			△		
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 継続	基礎学力の 定着	国語、社会、 数学、理科、 英語	1 毎日 2 年3回	1 朝学習・朝読書 2 授業改善と学習コンテスト 導入・振り返り、ドリル	・朝学習等 ・学習コン	学習コン3回 基礎学力80%	平均通過率67.8% (昨年度63.6%) 基礎学力定着の指導は 78.0% (昨年度78.2%)	・通過率は、4.2ポイント 上昇した。来年度も工夫・ 改善が必要である ・主体的に学ぶ態度と家庭 学習の確立が課題である。	△
2 継続	授業改善の 充実	全教科	1 年4回 2 年2回 3 週1回	1 校内研修(生徒理解、ICT等) 2 研究授業 全教科で実施(ICT活用含む) 3 情報交流・授業観察 コミュニケーション拡大など	1 校内研修 2 研究授業 協議まとめ 3 授業観察	学習意欲を高める 指導の実施80% 研修等の機会10回 授業観察等	意欲を高める指導の実施 91.3% 研修等の機会10回 主体的・対話的で深い学び の授業の把握2回	・タブレット端末の活用 ・指導と評価に関する研修 ・職員室内の風土づくり ・主体的・対話的で深い学 びの実現が課題である。	○
3 継続	学習カウ セリングの 推進	全教科	1 毎日 いつでも 2 年2回 程度ほか	1 個別カウンセリング ・キャリア教育 ・勉強の仕方や学習習慣 2 三者面談や進路相談等	1 全生徒10回 悩み・進路 2 面談等 実施回数	学校生活満足 88.0% 学習への努力82% 三者面談等の実施 2回以上	学校生活満足度95.0% 学習への努力85.0% 教員の学習カウンセリ ング63.0% 全生徒との個別相談・指導 等の実施	・早朝及び放課後等の取組 を積極的に実施した。 ・保護者との連携の強化、 全生徒の意識向上が課 題である。	○
4 継続	補充的学習 の充実	数学、英語	1 年28回 2 毎日 3 年間を 通じて	1 ESL:指名制個別補充学習 2 早朝塾(学習特訓) 3 関係機関との連携強化 学習塾、チャレンジ学習など	1 実施状況 確認調査 2 実施状況 確認調査 3 情報交流 学力調査	ESL28回以上 基礎学力の定着指 導80%	ESL21回実施 基礎学力78.0% 家庭学習等61.0%	・ESLは定期考査が3回の ため回数が減っている が定期テスト前後7日 間は実施することがで きた。 ・関係機関の活用が課題で ある。	△
5 継続	主体的な学 習機会の提 供	国語、社会、 数学、理科、 英語	1 定期的 3回程度 2 検定等	1 教え合い教室 生徒が問題作成・配布 2 各種検定へのチャレンジ推進 ・学校における検定試験の推進	1 実施度、コ ンテスト等 2 検定実施 受検者数	各教科の学習コン テスト等で80% 英・漢・数の受検 者数50%	各教科の学習コンテスト 等を各学年で計画・実施す ることができた。 英検・漢検・数検の受検者 主体的な学びの場の提供 することができた。	・コロナ禍において学習内 容の変更や主体的な学 習の機会を提供する場 面が少なくなった。 ・家庭学習の確立が課題で ある。	△
6 継続	学習習慣の 確立	全教科	1 毎日 2 月1回 以上	1 「わかる・できる」授業の工夫 と家庭学習ノートの工夫 2 各種たより、保護者会及び面談 等の充実	1 自己評価 2 自己評価 保護者情報 関係者評価	教員の自己評価 80% 実施回数等 家庭学習1時間以 上60%	基礎学力定着の指導の実 施78.0% 各種便り増加 家庭学習を1時間以上 60.0%	・タブレット端末の活用 ・ホームページの充実 ・家庭学習ノートの配布 ・生活習慣・学習習慣の確 立が課題である。	△
7 継続	ICT機器を 活用した授 業改善	全教科	該当教科 で週1回 以上活用	1 タブレットに搭載された授業 支援ソフトの活用 2 ICT機器を活用し生徒が興味 関心を抱く授業の工夫	1 指導案検討 2 研究授業 3 授業観察	学習意欲を高める 指導の実施80%	学校での学習に努力する 生徒が85.0%(昨年度 82.0%)	・教員が意識的にタブレッ トを使用しての授業改 善や工夫ができるよう になってきた。	○

重点的な取組事項－2

健全育成：思いやりを中心とした豊かな心の涵養

A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
思いやりなど豊かな心の涵養による自己肯定感の向上		生徒自己評価で自己肯定感75% 人のためになる活動80%	自己肯定感77.0% ※1年75.6%、2年73.51%、 3年82.2% 人のためになる行動85.0%	・コロナ禍における学校生活では、自己肯定感が高い方である。 ・他人事から自分事化へと意識を変革し、全生徒で社会貢献活動に取り組む。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
道徳教育の充実	学校生活満足度85% 道徳性の涵養 挨拶、礼儀・マナー80%	「考える道徳・議論する」道徳授業及び道徳授業地区公開講座等の充実、意識調査	学校生活満足度が93.0% 第1学年全員で人権作文の取組	・道徳授業地区公開講座での生徒の考え検討する授業の実施と保護者・地域との意見交換会を成功させた。 ・道徳科の指導力のさらなる向上が課題である。	○
社会貢献活動の推進	人のためになる活動の実践80%	「夢のひまわりロード計画」の実施 地域コミュニティの活性化、意識調査、参加人数	人のためになる活動を実施85.0% 地域清掃など各種ボランティア善行表彰	・コロナ禍においても「夢のひまわりロード計画」生徒会、全校生徒で取り組んだ。ボランティアマインドの醸成ができた。	○

重点的な取組事項－3		体力向上：自らの生活を豊かにする活力ある生徒の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
体力を高め、活力ある生活の実践力の向上		学校生活に満足90% 体力の高まり感80% 運動・スポーツへの関心80%	生活満足度 93.0%、スポーツ関心度 80.0%、 体力の高まり感 81.0% で昨年度より向上した。	・全体としては高い数値を示している。さらに全生徒に広げていくことが課題である。 ・生徒の興味・感心に合った運動部の新設と活動場所の確保が必要である。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力向上	体力の高まり感80% 運動・スポーツ等への関心80%	体力調査結果の分析と個の課題に応じた体力向上の取組 運動習慣の確立、関係機関との連携	運動・スポーツへの関心80.0% 体力が高まった81.0%	・依然として運動やスポーツへの関心80.0%と高い。 ・全体的に体力向上への意識は高い。	○

部活動等への積極的参加	部活動等加入率80% 部活動等で頑張り90%	部活動の推進 部活動の教育的価値の理解、 礼儀・マナー、リーダー育成	部活動加入率は98.0% 運動部51.0% 文化部 41.0% 部活動等での頑張り 82.0% ※1年92.4%、2年80.2%、 3年73.84	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の在り方を検討していくことが課題である。 固定の運動部活動だけでなく、生徒の興味・関心の高い部活動を新設していく必要がある。 顧問の確保が課題である。生徒が主体的に活動できる、サークル活動を新設していく必要がある。 	○
-------------	---------------------------	--	---	--	---

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

【課題】 1年生の英語については区の学力調査の通過率で区の全体より低く、学習の定着度に課題がある。その他は各学年とも、国語、数学、英語と区全体の通過率を若干ではあるが上回っている。ただ、家庭学習を1時間以上行っている生徒が1年生で合う49.6%、2年生で51.5%と低い。

【対策】 本校の課題である基礎学力の定着と家庭等における学習習慣の確立を解決するために、今後とも一人一人がねらいを明確にして意欲をもち学習に取り組む授業づくりやAIドリルを活用した補習等の工夫や充実、家庭との連携、家庭学習ノートの工夫等による学習習慣の確立を図っていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

重点的な取組事項－3 健全育成

生徒の自己評価から、挨拶がしっかりできた生徒、95%、部活動に頑張れた生徒が82%、自己の生活や取組状況について満足している傾向にあり、自己肯定感は全学年73%（3年生は82.2%）を超えています。今年度は、道徳科、オリンピック・パラリンピック教育（ボランティアマインドの醸成）中心とした思いやりの心の涵養などを一層充実させてきました。また、社会貢献活動を積極的に教育活動に取り入れ、実践していく生徒を育成してきました。その結果、「人のためになることをしましたか」の問いには85.0%、「いじめをしないさせないようにしていますか」の問いにも93.0%と高い数値を示しています。今年度の教育活動の成果を受け、健全育成の観点から、継続して次年度も推進していきます。

重点的な取組事項－3 体力の向上

体力向上と豊かな生活を送る活力の育成を一層向上させるため、授業等の改善・充実や保護者との連携強化とともに、小中一貫教育の視点で取組を充実させていきます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

本校の「文武両道」の経営方針や「磨く」「挑む」「思いやる」の行動指針について、保護者や地域の皆様に十分ご理解いただけるようになりました。

本年度は、基礎学力の定着について、ICTを積極的に活用した授業の充実につなげることで、分かる・できる授業づくり、学習習慣の確立などから基礎学力の向上に取り組みました。今後は、これからの社会を主体的に生き抜く力として求められているグローバル人材の育成を目指し、物事に対する関心を深めること、わかる・できる楽しさを味わわせて学ぶ態度を養うことや、他者と協力して課題を解決していくことなどの体験を通して、教育基本法が示す生徒の主体的に学ぶ態度を養う教育の充実に努めてまいります。

